

◆事前質問一覧

No	資料	頁	内容	回答	担当課
1	資料5	1	「※提供体制の適正化を図ります。」とは、市立幼稚園の統廃合を進めること(令和3年度第2回の議事内容)の理解でよろしいでしょうか？	市立幼稚園については、各地区の就学前児童数の推移や施設整備状況、民間の認定こども園等の配置状況を踏まえ、望ましい集団規模を確保するため、統廃合等について検討を進めることとしており、幼児教育に対するニーズをとらえ、一定の役割を果たすため必要な提供量を確保したうえで、提供体制の適正化を図っていきます。	教育総務課
2	資料5	1	区域Aは見直し後の令和6年度も量の見込み1277人に対し定員数合計1880人のため、計算上はかい離率が10%以上となる見込みです。さらなる見直しが必要なのではないでしょうか？	見直し判断のために比較する数値については、実績値（支給認定区分ごとの子どもの人数）と計画における量の見込みとされています。 教育（1号認定）においては、市内全域において供給過剰の状態であるため、質問1の回答のとおり、提供体制の適正化を図り、今後の実績に応じて修正いたします。	こども政策課
3	—	—	<p>東洋経済ONLINEの2022/8/30掲載記事について https://toyokeizai.net/articles/-/611610 「保育士の数を2倍」にした園で起きた劇的変化 「加古川」では市を挙げて働き方改革に取り組む</p>  <p>本記事の後半に、加古川市のICTを活用した事例が紹介されています。 同様な内容を市として報告書・広報等を作成し、一般公開していただけますでしょうか？ 作成・一般公開しているのなら、紹介いただきたいです。</p>	<p>午睡チェックセンサーや登降園管理システムの導入について、市独自に広報しているものはありませんが、このたび取り上げていただいた内容については、加古川市スマートシティ構想に沿ったものであることから、加古川市版デンシティムにおいて、紹介させていただきました。また、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構ホームページにも掲載されています。</p> <p>■加古川市版デンシティム（別紙1） https://kagokawa.diycities.jp/processes/smartcityprogress/f/551/posts/289</p> <p>■国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（別紙2） https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100126.html 〔(4)アーキテクチャ構築>(a)スマートシティ> スマートシティ実証研究：採択テーマ一覧（8件）>8ページ〕</p>  	幼児保育課

◆事前質問一覧

No	資料	頁	内容	回答	担当課
4	—	—	<p>両荘地区は市内初の義務教育学校設立の計画もあり、単なる統廃合に終わらない前向きな再編として、地域ぐるみでのまちづくりへの期待が寄せられ、特に子育て世代からは子育て環境の更なる充実が望まれています。</p> <p>その中で、みとろフルーツパーク再整備の計画が進んでいますが、現在公表されている再整備の内容については、気軽に芝すべりやピクニック、自然散策出来る環境が失われるのではないかと、温室の学びの場としての側面は引き継がれるのか等、周囲の子育て世代からは不安の声が聞かれます。</p> <p>また、権現総合公園キャンプ場の閉鎖を惜しむ声がある一方、みとろフルーツパークのキャンプ場の新設には近隣家族でも利用しやすい環境が期待されています。</p> <p>当施設は子どもの学びの場であり、親同士の交流の場であり、子どもの健やかな育ちと子育てを支えていると感じています。また、既存施設の有効活用によって子どもたちの非認知能力育成の場としても大いに利用できるのではないかと考えています。その意味で、再整備を進める所管部署は異なるのかもしれませんが、教育・保育を所管する部門からも働きかけを行うことで、再整備が地域にとってより良いものになるのではないのでしょうか。</p> <p>子ども・子育て支援事業の基本理念には「子どもが健やかに成長することができるまち」「子育てするなら加古川市といわれるまちをめざして」とあります。「教育・保育の提供」および「地域子ども・子育て支援事業の13事業」の枠組みにとらわれることなく、まちづくりや地域産業との部門横断的な連携が必要であると考えますが、そのあたりの現状と今後の可能性についてお聞かせください。</p>	<p>見土呂フルーツパーク再整備の内容及び進捗につきましては、市民の方のご関心とご理解を得られるよう、新たな指定管理者と共に情報発信に努めたいと思います。ご懸念のことに関しまして、見土呂フルーツパークは、市の農業公園としての位置付けはそのままに、より良い施設となるよう整備を進めることとしておりますので、芝すべりや自然散策できる環境は今と大きくは変えずに維持する計画でございます。また、ガラス温室については、設備の維持管理やランニングコストの観点から、これまでの熱帯の環境とはいたしません、引き続き屋内公園とし、植物に囲まれたくつろぎの空間を実現したいと思っています。</p> <p>また、宿泊施設につきましては、既存の地形を活かし、景観を臨めるエリアや、新たに整備するドッグランに併設した、ペットと一緒に泊まれるエリアなど、多様なニーズに応えられるキャンプ・グランピングを備える計画です。手ぶらで来園されても利用できるよう、貸出し備品の充実も図っていきたくと思っています。</p> <p>見土呂フルーツパークの再整備につきましては、本市の課題の一つである観光拠点としての整備もありますが、当初からの施設の目的である自然の体験や学び、交流を強く意識した計画となっております。新たに指定管理者となった事業者からの提案では、子ども農園やキッズファーマーズクラブの発足について検討をすることになっており、家族や子どもたちが自然や農業に触れ、暮らしの豊かさをみんなで学べる場所となることを目指します。また、市民や施設利用者の方々からの要望や改善点を集め、指定管理事業における収支が良好であれば、施設をアップデート（再投資）し、より良い場とできるよう仕組み作りを検討してまいります。</p>	農林水産課
				<p>加古川市をより良いまちにするため、様々な分野において会議への参加や意見の提出など、市として一体的に連携を行っています。今後も目指すべきまちづくり実現のため、全庁的に取り組むとともに、市民の方々の意見もお伺いしながら進めていきます。</p>	こども政策課

スマートシティ構想の実施状況

実施状況についてご意見をお寄せください。

段階 1/4

アイデア収集フェーズ

2022/08/10 - 2022/11/30

プロセスのフェーズ

プロセス 1:市民 2:まち 3:行政 事務局からのお知らせ

[◀リストに戻る](#)

ICT導入により保育士の働き方改革に挑む自治体として紹介されました。

事務局_10時 2022/09/15 17:53 0 コメント 0 オススメ

加古川市のスマート保育に関する取り組みが掲載されていますので是非ご一読ください。

「加古川」では市を挙げて働き方改革に取り組む

働き方改革やICT活用を通して、保育士はもちろん、子どもや保護者も笑顔になれるよう、今後も施策を講じていきます。

0 オス

17

一時金を支給

- 採用から半年後に最大30万円
 - 勤続2～5年目に毎年最大20万円
 - 勤続6年目に最大30万円
- ※一時金は勤務施設から振込まれます。

勤続6年目までに
最大140万円を
支給

私立認可保育施設67施設

※令和3年4月時点

宿舍家賃の一部を補助

勤務施設が用意した宿舍に住む場合、毎月の家賃を最大5万5,000円補助します。

お子様は優先的に認可保育施設に

育児休業から復帰する、または子どもがいる人が新たに市内で勤務する際は、優先的に市内の認可保育施設に入所できます。
※希望する施設が受け入れ可能な場合に限りです。

看護師を配置する施設に補助

奨学金返還額の一部を補助

「保育士」になるなら
加古川市で！

はい♡



■採択テーマ：分野横断による課題解決型デジタルスマートシティの実現と複数都市間のデータ連携に関する実証研究

■委託先：株式会社日建設計総合研究所、総合警備保障株式会社

■内容：

本研究開発では、兵庫県加古川市の課題を解決するため、【サブテーマ1】日本一の安全・安心なまちの実現に向けた「次世代見守りサービスの展開」「AI 高齢者行動分析に向けたデータ収集・利活用」、【サブテーマ2】保育士が働きやすく、高質な保育サービスによって子育て世代に選ばれるまちを実現するため ICT や IoT 等を活用した「スマート保育園」の実証研究を実施します。さらに、これらの実証研究を通じ、【サブテーマ3】収集データを加古川市スマートシティ向け情報基盤 (FIWARE) に蓄積し、「加古川市オープンデータ API」等を活用して他都市との連携を図ります。また、市民とエンゲージメント強化ツールとして「かこがわアプリ (行政アプリ)」等を活用し、課題解決型デジタルスマートシティの実現を目指した実証研究を実施します。

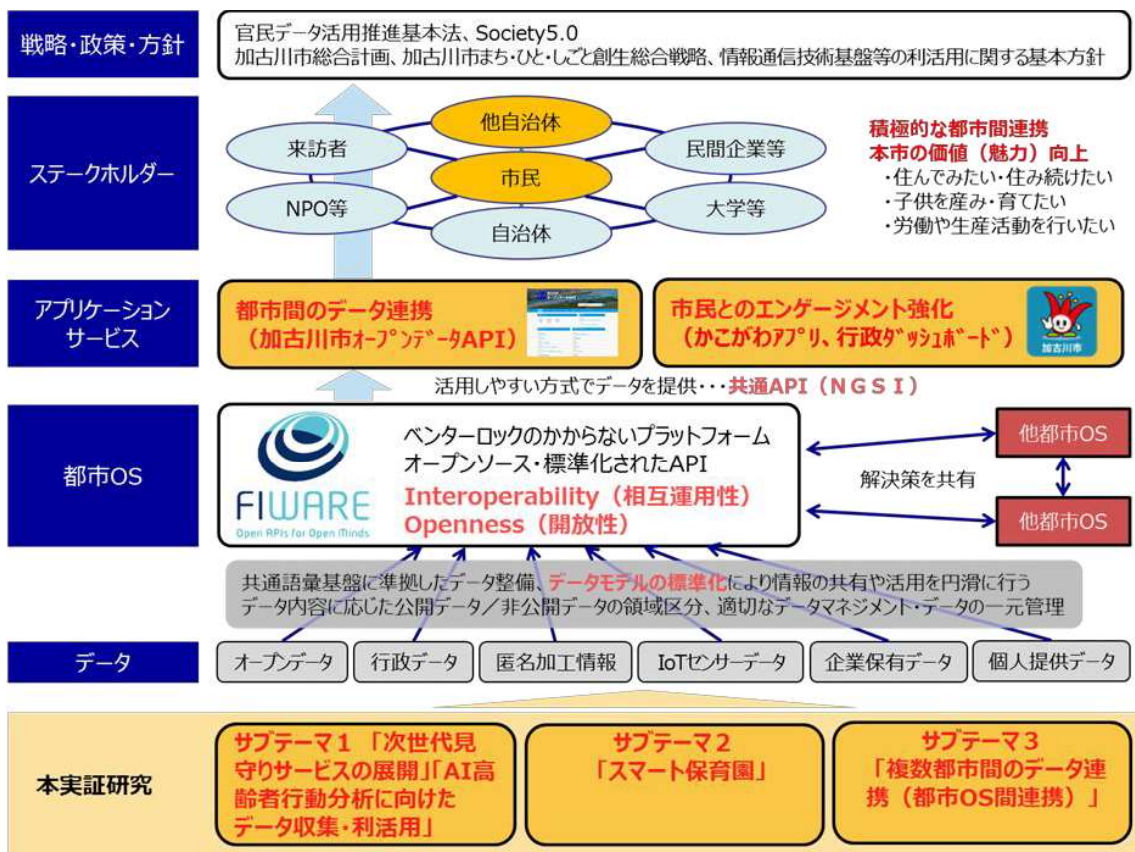


図8 課題解決型デジタルスマートシティの実現イメージ